

環境経営レポート

2024年度

対象期間：2024年1月～12月

目次

1. 環境経営方針	P1
2. 組織概要	P2
3. 環境経営目標と実績・評価	P3
4. 環境関連法規制等	P13



アース製薬株式会社

発行：2025年8月8日

アース製薬株式会社 環境経営方針

私たちアース製薬は「生命と暮らしに寄り添い、地球と共生」を基本理念に、あらゆる事業活動に対し、自ら積極的に地球環境保全に配慮し、世界の人々の暮らしに貢献します。

〔基本方針〕

1.コンプライアンス

環境保全に関する法規制・取り決め事項・自主基準を遵守する。

2.環境に配慮した事業活動

環境に配慮した商品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う。

3.気候変動

省エネルギーやクリーンエネルギーの導入を推進する。

4.省資源

水資源の有効活用や廃棄物の抑制、リサイクルを推進する。

5.社員啓発

すべての従業員が環境保全に高い意識を持ち、自ら社会に貢献できるよう教育・啓発を行う。

6.地域社会

地域社会の環境保全に責任ある対応を行う。

7.情報開示

環境保全に関する情報開示を積極的に行う。

8.継続的改善

環境マネジメントシステムを構築し、継続的に改善する。

制定日 : 2007 年 5 月 7 日

改訂日 : 2022 年 5 月 22 日

アース製薬株式会社

取締役
最上執行役員

唐瀧久明

◆ 組織の概要

(1) 名称及び代表者

アース製薬株式会社
代表取締役社長CEO 川 端 克 宜
取締役常務執行役員 唐 瀧 久 明 …… エコアクション21代表者

(2) 所在地

本 社：東京都千代田区神田司町2-12-1
坂越工場：兵庫県赤穂市坂越3218-12 （研究所を併設）
赤穂工場：兵庫県赤穂市西浜北町1122-73
掛川工場：静岡県掛川市細谷字山合635-1 [休止]
Act Terrace：東京都千代田区神田司町2-14-3
その他支店等： 35 事業所(詳細 別紙1参照) 合計 40 事業所

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者： 上席執行役員 生産本部 本部長 久 保 浩 之 TEL 0791-48-8001
担当者： CSRサステナビリティ推進部 次長 上 田 昌 弘 TEL 03-5207-7451

(4) 事業内容

家庭用殺虫剤・生活用品等の製造、販売及び輸出入
本 社：本社機能、虫ケア用品・生活用品等の商品企画・販売及び輸出入
坂越工場：虫ケア用品・生活用品等の商品開発及び製造
赤穂工場：虫ケア用品・生活用品等の製造
掛川工場：虫ケア用品の製造
Act Terrace：虫ケア用品・生活用品等の販売
その他支店等：虫ケア用品・生活用品等の販売

(5) 事業規模（2024年12月末日時点）

資本金 10,192 百万円
売上高 85,902 百万円

	従業員数	延床面積
本 社	302 名	4,439 m ²
坂越工場	484 名	43,753 m ²
赤穂工場	175 名	41,872 m ²
掛川工場	0 名	7,904 m ²
Act Terrace	248 名	3,669 m ²
その他支店等	355 名	4,671 m ²
合 計	1,564 名	106,308 m ²

従業員には派遣、パート等を含む

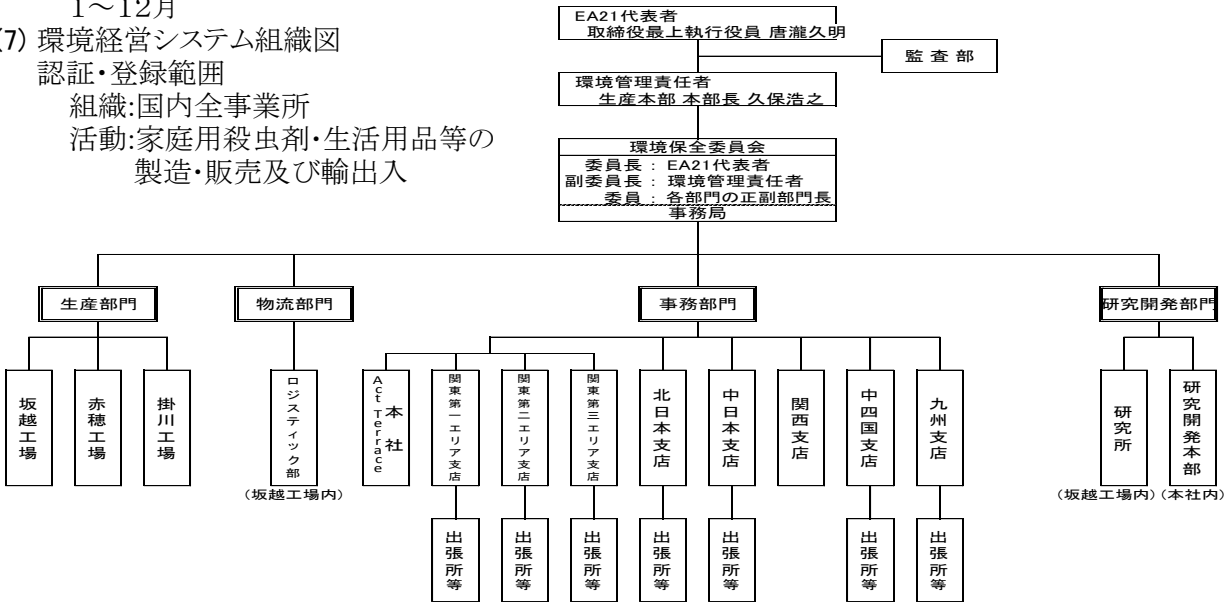


(6) 事業年度

1～12月

(7) 環境経営システム組織図

認証・登録範囲
組織:国内全事業所
活動:家庭用殺虫剤・生活用品等の
製造・販売及び輸出入



◆ 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2017年 [基準年度]	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
二酸化炭素排出量(t-CO ₂)		7,269	5,448	4,647	4,080	3,825	3,603
廃棄物排出量	(t)	2,701	2,345	3,270	4,392	3,946	3,602
排水量	(m ³)	58,786	58,690	50,497	58,318	56,476	68,182

※ ・ 二酸化炭素排出量は各拠点の電力会社の調整後係数を採用しています。

- ・ 排水量には、支店などテナントビルに入居する事業所は含みません。
- ・ 廃棄物排出量・排水量には、同一敷地内にある他企業の一部を含みます。
- ・ 廃棄物排出量は一般廃棄物と産業廃棄物の合計値となります。

◆ 環境経営目標とその実績

下段: [基準年度比]

	2017年 [新基準年度]	2023年 [前年度]	2024年			2025年	2027年
			目 標	実 績	目標達成率	目 標	中期目標
(1) エネルギー 使用量の削減 (GJ)	121,469	115,510 [▲ 4.9%]	121,591 [+ 0.1%]	125,161 [+ 3.0%]	④ 97.1%	126,821 [+ 4.4%]	124,300 [+ 2.3%]
(2) 廃棄物排出量 の削減 (t)	2,701	3,946 [+46.1%]	3,939 [+45.8%]	3,602 [+33.3%]	④ 109.4%	3,623 [+34.1%]	3,560 [+31.8%]
(3) 節 水 (水使用量の削減) (m ³)	77,595	97,987 [+26.3%]	105,135 [+35.5%]	123,191 [+58.8%]	④ 85.3%	126,408 [+62.9%]	123,900 [+59.7%]
(4) コピー用紙 使用量の削減 (千枚[A4換算])	4,709	3,335 [▲29.2%]	3,306 [▲29.8%]	2,987 [▲36.6%]	④ 110.7%	2,938 [▲37.6%]	2,880 [▲38.8%]

	2024年		2025年	2027年
	目 標	実 績	目 標	中期目標
(5) 環境に 配慮した 事業活動	① 製品開発 ・ テーマ創出活動 3件	4件	・ テーマ創出活動 4件	・ 環境配慮製品の 開発推進 ・ 包材資材の減量化
	② 生産 ・ カイゼン提案 4,170件	4,457件	・ カイゼン提案 3,950件	・ 環境に配慮した 生産活動の推進
	③ 販売 ・ 社有車の燃費の 把握・周知	・ 3ヵ月毎に実施	・ 社有車の燃費の 把握・周知	・ 環境に配慮した 販売活動の推進
	④ 物流 ・ 輸送量当たり のCO ₂ 排出量 10.9%削減 (2017年度比)	12.4%削減	・ 輸送量当たり のCO ₂ 排出量 13.3%削減 (2017年度比)	・ 輸送量当たり のCO ₂ 排出量 12.6%削減 (2017年度比)
(6) 化学物質 の削減	・ 生産工程で使用する PRTR対象物質の 排出量・廃棄量 75.8%減少 (2017年度比)	70.6%減少	・ 生産工程で使用する PRTR対象物質の 排出量・廃棄量 74.6%減少 (2017年度比)	・ PRTR対象物質の 排出量・廃棄量 47.6%減少 (2017年度比)
(7) 地域社会へ の対応	・ 本社・工場周辺 清掃の実施	・ 本社は日常清掃 エリアとして実施	・ 本社・工場周辺 清掃の実施	・ 地域社会と連携した 活動の継続

- ※ ・ (1)エネルギー使用量について、
2021年度より二酸化炭素排出量をマーケット基準に変更したことを踏まえて、省エネな
ど取り組みの成果を評価するため、管理項目を二酸化炭素排出量からエネルギー使用
量に変更しています。
- ・ (2)廃棄物排出量・(3)節水(水使用量)には、同一敷地内にある他企業の一部を含みます。

- ・ (3)節水(水使用量)について、
支店などテナントビルに入居する事業所の水使用量は含みません。
工場では、製品の原料やボイラの蒸気発生にも水を使用しているため、水使用量と排水量に大きな差が生じています。
- ・ (6)「化学物質の削減」について
環境方針「環境に配慮した製品開発、資材調達、生産、物流、販売を行う」の一環として、(5)-①,②の推進と併せて取り組んでいます。
- ・ 目標達成率は、次式で算出しています。
削減に取り組む項目((1)エネルギー・(2)廃棄物・(3)節水・(4)コピー用紙)

$$\text{目標達成率} = \frac{\text{目標値}}{\text{実績値}} (\%)$$
- ・ 2025年度目標及び中期目標は、生産品目の追加や増産、営業活動の増加の影響も考慮のうえ設定しています。(次ページ以降も参照)

◆ 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

(1) エネルギー使用量の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象			
	本社 Act Terrace 関東エリア	坂越工場	赤穂工場	その他 支店等
・ 室温管理の適正化				
・ 不要照明の消灯, 昼休みの一斉消灯	☆	☆	☆	☆
・ OA機器の省エネモードの活用				
・ エコドライブの推進		☆	☆	
・ 省エネ機器の導入		☆	☆	
・ デマンドコントロール装置等の活用			☆	
・ カイゼン提案活動の推進		☆		
・ 時間外勤務の削減, ノー残業デーの設定	☆			☆
・ 営業活動の効率化	☆			☆
・ 電力需給問題への対応	☆	☆	☆	☆

② 達成状況

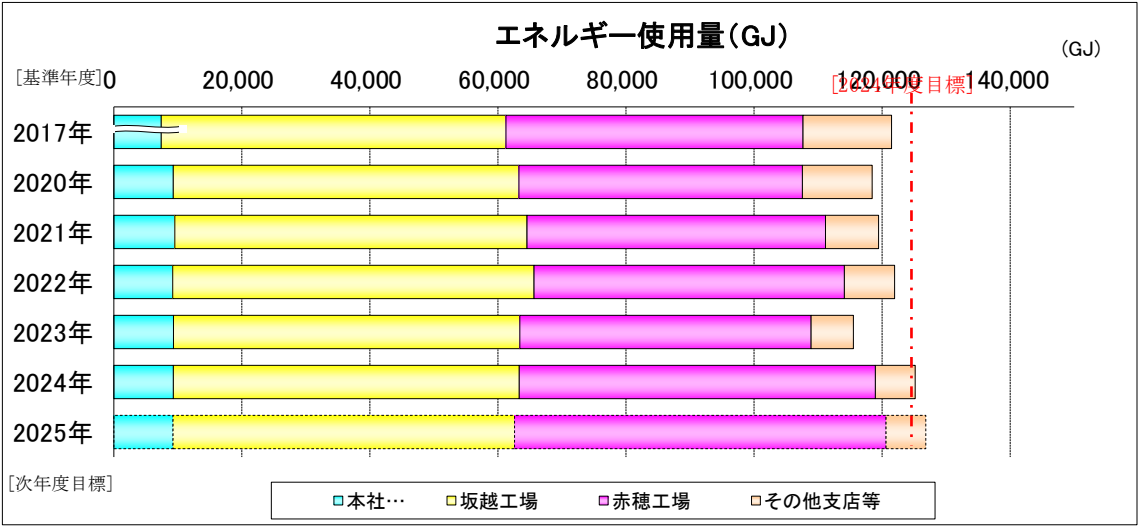
☆:重点的な取り組み項目

エネルギー使用量(GJ)

下段:[基準年度比]

	2017年 [新基準年度]	2023年 [前年度]	目 標	2024年 実 績	目標達成率	2025年 目 標	備 考
本社 Act Terrace 関東エリア	7,409	9,314 [+ 25.7%]	9,375 [+ 26.5%]	9,297 [+ 25.5%]	100.8%	9,249 [+ 24.8%]	2019年10月、首都 圏営業統括部がAct に移転
坂越工場	53,834	54,098 [+ 0.5%]	53,988 [+ 0.3%]	54,027 [+ 0.4%]	99.9%	53,338 [▲ 0.9%]	
赤穂工場	46,401	45,496 [▲ 2.0%]	51,704 [+ 11.4%]	55,626 [+ 19.9%]	92.9%	58,030 [+ 25.1%]	2017年度よりモンダミ ン新工場が稼動
その他 支店等	13,826	6,603 [▲ 52.2%]	6,524 [▲ 52.8%]	6,211 [▲ 55.1%]	105.0%	6,205 [▲ 55.1%]	
総 合	121,469	115,510 [▲ 4.9%]	121,591 [+ 0.1%]	125,161 [+ 3.0%]	97.1%	126,821 [+ 4.4%]	

※ 目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、生産品目の追加や増産計画がある坂越工場・赤穂工場は、2025年度の目標は前年度の実績値より増加します。※掛川工場は2023年11月より休止しているの、坂越工場分にデータを合算しています。



③ 評価(結果)

- ・ 2024年度は、2017年度比0.1%増加の目標を掲げて取り組んだ結果、エネルギー使用量は3.0 %増加(前年度比7.1%増加)となり、目標未達となりました。未達成の主な原因は、生産の増加および営業活動の増加によるものです。
- また、2021年4月に赤穂工場生産部門、2022年4月に同事務管理棟、2023年4月に坂越工場生産部門の電力を再生可能エネルギー由来のCO2フリー電力に切り替えたことで二酸化炭素排出量は、2006年度比46.2%削減(前年度比11.7%削減)となりました。

- ・工場では照明器具や動力設備などを計画的に更新しています。2024年度は研究部で7区画の照明をLED照明にし、エアコン4台更新しました。機種を選定にあたっては、省エネ性能の高い機器を積極的に採用しています。また、超音波によるエア漏れ箇所の確認と改善を実施し、コンプレッサーの電力使用量削減に取り組んでいます。
- ・エネルギーの「見える化」も進めています。工場では、生産ラインや設備ごとに、しかもリアルタイムに把握することで、効率的、効果的な省エネ活動が実施できると考え、坂越工場・赤穂工場・研究所において、電力使用状況などの「見える化」システムを導入しています。そのシステムを活用した社員参加型の省エネ活動の推進と定着を図るため、各部署から設備などに熟知したメンバーで構成する「省エネ推進委員会」を毎月開催し、改善内容を共有、展開することで、さらに大きな成果を創出できるよう取り組んでいます。今後、その改善事例をアースグループ各社に情報発信し展開することで、グループとしての取り組みを進める考えです。
- ・電力需要平準化にも取り組んでいます。夏季・冬季の期間には、空調設備の利用によって電力使用が大幅に増加するため、効率的な運転や室内の断熱などの対策を行っています。
- ・また、2025年には本社で営業車3台をEVに更新する計画となっています。



④ 次年度の取組内容

- ・2025年度は、生産品目の追加や増産、営業活動による増加がありますが、照明や空調機など設備の更新、エネルギーの「見える化」システムの活用による省エネ改善等により、2017年度比4.4%増加(前年度比1.3%増加)を目標として取り組みます。

(2) 廃棄物排出量の削減

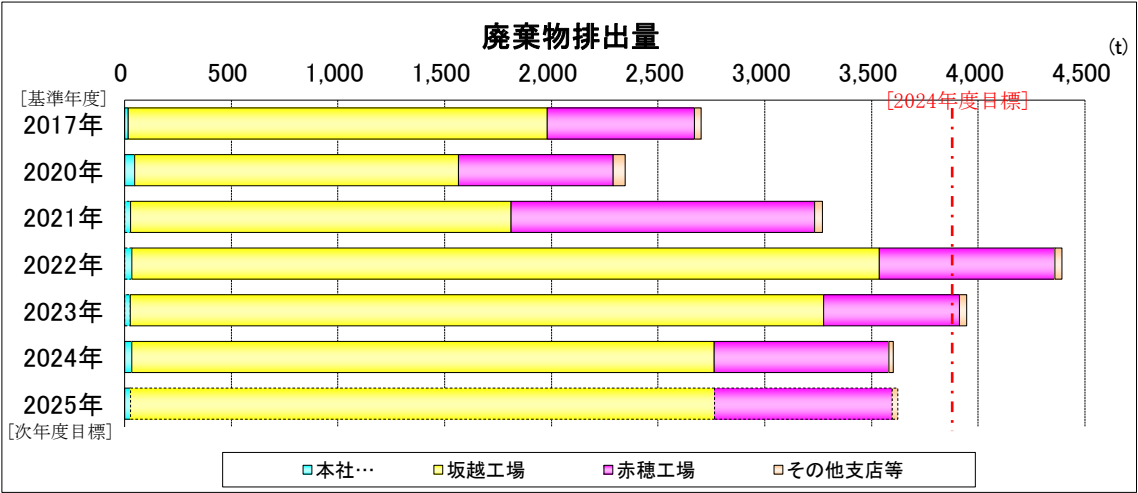
① 取り組み計画

取り組み計画	対 象			
	本社 Act Terrace 関東エリア	坂越工場	赤穂工場	その他 支店等
・ 分別方法の周知徹底・見直し	☆	☆	☆	☆
・ 分別状況の確認		☆	☆	☆
・ リサイクルの推進		☆	☆	☆
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	
・ 生産・販売の効率化(売残り品対策)	☆	☆	☆	☆

② 達成状況

廃棄物排出量(t)							
下段:[基準年度比]							
	2017年 [新基準年度]	2023年 [前年度]	目 標	2024年 実 績	目標達成率	2025年 目 標	備 考
本社 Act Terrace 関東エリア	17.0	26.7 [+57.1%]	28.8 [+69.6%]	33.7 [+98.4%]	85.5%	27.9 [+64.4%]	2019年10月、首都 圏営業統括部がAct に移転
坂越工場	1,963.5	3,248.8 [+65.5%]	3,156.4 [+60.8%]	2,729.0 [+39.0%]	115.7%	2,736.4 [+39.4%]	
赤穂工場	689.8	636.5 [▲ 7.7%]	726.3 [+ 5.3%]	818.6 [+18.7%]	88.7%	832.8 [+20.7%]	2017年度よりモンダミ ン新工場が稼動
その他 支店等	31.2	33.8 [+ 8.4%]	27.5 [▲11.7%]	20.5 [▲34.3%]	134.4%	26.0 [▲16.7%]	
総 合	2,701.4	3,945.8 [+46.1%]	3,939.1 [+45.8%]	3,601.8 [+33.3%]	109.4%	3,623.1 [+34.1%]	

※ 目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、生産品目の追加や増産計画がある赤穂工場、営業活動が増加するAct Terrace・支店等は、2025年度の目標は前年度の実績値より増加します。



③ 評価(結果)

- ・ 2024年度は、2017年度比45.8%増加の目標を掲げて取り組み、33.3%増加(前年度比8.7%削減)に抑えて、目標を達成できました。次年度以降も引き続き達成できるように取り組みを強化していきます。

④ 次年度の取組内容

- ・ 2025年度は発生した廃棄物を有効利用できるように新たなリサイクルの取り組みを検討しております。2017年度比34.1%増加(前年度比0.6%増加)を目標として取り組みます。

(3) 節水
① 取り組み計画

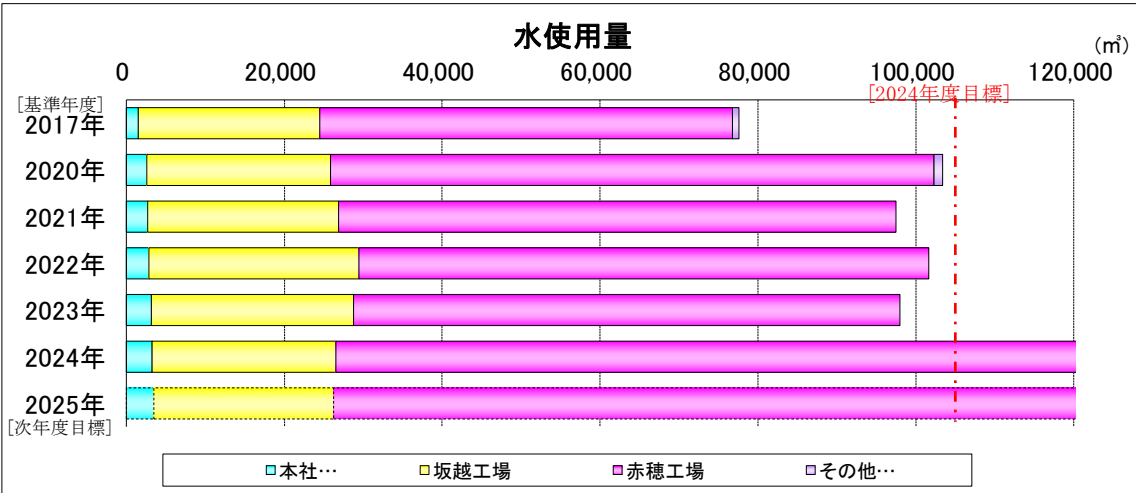
取り組み計画	対 象			
	本社 Act Terrace 関東エリア	坂越工場	赤穂工場	その他 支店等
・ 節水運動展開		☆		
・ 取組内容の周知				☆
・ 給排水設備のメンテナンス	☆			
・ 漏水確認	☆			
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	

② 達成状況
水使用量(㎡)下段:[基準年度比]

	2017年 [新基準年度]	2023年 [前年度]	目 標	2024年 実 績	目標達成率	2025年 目 標	備 考
本社 Act Terrace 関東エリア	1,517	3,172 [+109.1%]	3,299 [+117.5%]	3,264 [+115.2%]	101.1%	3,483 [+129.6%]	2019年10月、首都 圏営業統括部がAct に移転
坂越工場	22,986	25,608 [+11.4%]	25,675 [+11.7%]	23,280 [+ 1.3%]	110.3%	22,770 [▲ 0.9%]	2018年度は新規生 産設備を設置
赤穂工場	52,271	69,208 [+32%]	76,162 [+45.7%]	96,647 [+84.9%]	78.8%	100,155 [+91.6%]	2018年度はモンダミ ン新工場が通年稼動
その他 支店等	821		0 —	0 —	#DIV/0!	0 —	
総 合	77,595	97,987 [+26.3%]	105,135 [+35.5%]	123,191 [+58.8%]	85.3%	126,408 [+62.9%]	

※ 支店などテナントビルに入居する事業所は未把握

目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、本社・Act Terrace、生産が増加する赤穂工場では、2025年度の目標は前年度の実績値より増加します。



- ③ 評価(結果)
- ・ 2024年度は、2017年度比35.3%増加の目標を掲げて取り組んだ結果、58.8%増加(前年度比25.4 %増加)となり、目標を達成できませんでした。未達の原因として、洗口液など水を含有する製品の生産量の増加によるものとなります。
 - ・ 節水活動とともに、漏水等の異常を早期に発見できるよう、点検や水使用量の管理も徹底し、取り組んでいます。
- ④ 次年度の取組内容
- ・ 2025年度は、生產品目の追加や増産、特に水が含まれる製品の増産や営業活動の増加が見込まれるため、2017年度比62.9%増加(前年度比2.6%増加)を目標として取り組みます。

(4) コピー用紙使用量の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	対 象			
	本社 Act Terrace 関東エリア	坂越工場	赤穂工場	その他 支店等
・ 不必要にコピーしない		☆		☆
・ 両面印刷・2アップ印刷の活用				☆
・ 資料の簡素化	☆		☆	☆
・ 配布部数の削減				☆
・ プロジェクタ・書画カメラ等の活用				☆
・ ペーパレス化の推進	☆			☆
・ 裏紙の有効利用		☆	☆	
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	
・ 個人認証印刷システムの活用				☆

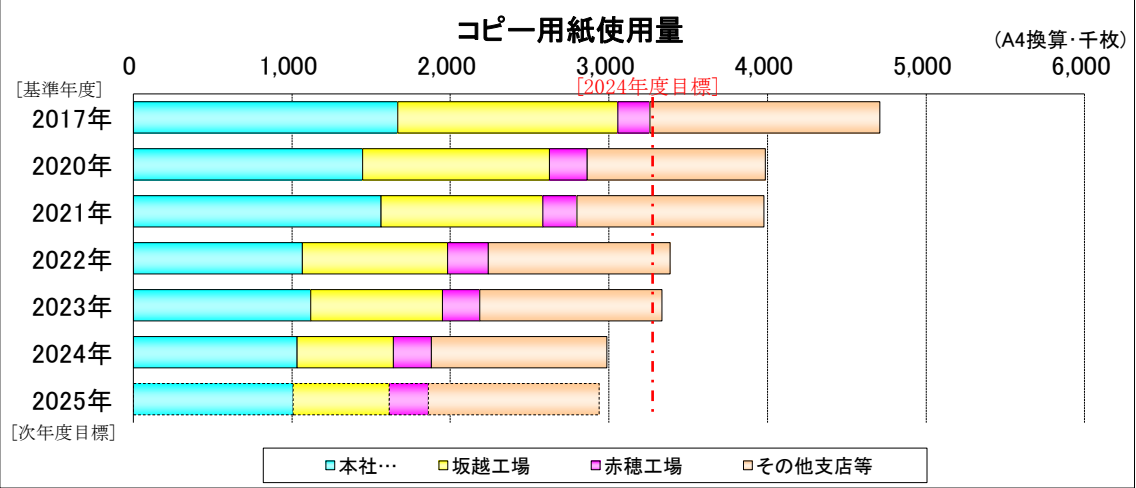
② 達成状況

コピー用紙使用量(A4換算・千枚)

下段:[基準年度比]

	2017年	2023年		2024年		2025年	備 考
	[新基準年度]	[前年度]	目 標	実 績	目標達成率	目 標	
本社 Act Terrace 関東エリア	1,667.9	1,118.9	1,092.2	1,033.0	105.7%	1,007.9	
		[▲32.9%]	[▲34.5%]	[▲38.1%]		[▲39.6%]	
坂越工場	1,388.5	831.1	825.7	607.4	135.9%	606.6	2018年度は製品開発の人員が増加
		[▲40.1%]	[▲40.5%]	[▲56.3%]		[▲56.3%]	
赤穂工場	202.5	235.3	259.8	239.7	108.4%	246.6	2018年度はモンダミン新工場が通年稼動
		[+16.2%]	[+28.3%]	[+18.4%]		[+21.8%]	
その他 支店等	1,450.4	1,149.4	1,128.4	1,106.9	101.9%	1,077.3	
		[▲20.8%]	[▲22.2%]	[▲23.7%]		[▲25.7%]	
総 合	4,709.2	3,334.7	3,306.0	2,987.0	110.7%	2,938.4	
		[▲29.2%]	[▲29.8%]	[▲36.6%]		[▲37.6%]	

※ 目標は前年度実績や事業計画などの諸条件を考慮のうえ設定しています。その結果、全体としては、削減への取り組みが奏効し減少します。一方、生産量が増加する赤穂工場では2025年度の目標は前年度の実績値より増加します。



③ 評価(結果)

- ・ 2024年度は、2017年度比29.8%削減の目標を掲げて活動に取り組んだ結果、36.6%削減(前年度比10.8%削減)と、大きく目標を達成できました。
- ・ 両面印刷など印刷方法の改善、資料の簡素化や配布部数の削減、そして会議・ミーティング資料のノンペーパー化を推進しています。営業活動においても、タブレット端末の活用によるノンペーパーを全国の拠点で継続しています
- ・ また、コピー機・プリンタの印刷状況データ(両面や集約、モノクロ/カラー別の枚数等)を「見える化」し、社員啓発に活かしながら取り組んでいます。

④ 次年度の取組内容

- ・ 2025年度は、ノンペーパーを一層推進し、2017年度比37.6%削減(前年度比1.6%削減)を目標として取り組みます。

(5) 環境に配慮した事業活動
① 取り組み計画



取り組み計画	対 象			
	本社 Act Terrace 関東エリア	坂越工場	赤穂工場	その他 支店等
i) 環境に配慮した製品開発		☆		
ii) 環境に配慮した生産		☆	☆	
iii) 環境に配慮した販売	☆			☆
iv) 環境に配慮した物流		☆		

② 達成状況

2024年			
目 標	実 績		達成状況
i) 環境に配慮した製品開発 ・ テーマ創出活動 3件	提案件数	4件	○
ii) 環境に配慮した生産 ・ 環境関連カイゼン提案 4,170件	提案件数	4,457件	○
iii) 環境に配慮した販売 ・ 社有車の燃費の把握・周知	3ヵ月毎に実施		○
iv) 環境に配慮した物流 ・ 輸送量当たりのCO2排出量 10.9%削減 (2017年度比)	12.4%削減		○

達成状況 ○:達成 △:未達成(達成率80%以上, 前年比で改善) ×:未達成(達成率80%未満, 前年比で悪化)

③ 評価(結果)

- i) 環境に配慮した製品開発
- 容器・包装材の減量化、製品のコンパクト化やロングライフ化、詰め替え製品は、それ自体が省資源や家庭のごみ削減になると同時に、輸送効率も向上し、省エネやCO2削減にもつながります。このように、製品のライフサイクル全体での環境負荷低減を意識しながら3R「リデュース(減量化)・リユース(再使用)・リサイクル(再資源化)」の視点で製品開発に取り組んでいます。また、天然由来成分や環境負荷が低い素材を使用した製品の拡充も図っています。
 - このような環境に配慮した製品開発を推進するため、提案活動を実施しています。2024年度は将来のテーマ創出を4件実施し目標を達成しました。
お客様のニーズと環境への配慮を両立させたものづくりに取り組んでいきます。
- ii) 環境に配慮した生産
- 生産現場の無駄を自ら発見し、それを取り除く改善活動は長年「カイゼン提案活動」として実施しています。その仕組みを活用し、省エネや廃棄物削減、節水など、環境をテーマとした提案も募り、実行することで「環境に配慮した生産」に寄与しています。
 - 2024年度は、提案件数4,457件で目標達成しました。本活動は環境保全の取り組みに大きく貢献するとともに、社員のモチベーションアップにも繋がっており、今後も推進していきます。
- iii) 環境に配慮した販売
- 営業活動で発生するCO2の大半は車両の使用によるものであるため、これまで低公害車の導入やエコドライブの啓発によりCO2削減に努めてきました。2020年度から取り組みを開始した営業車毎に燃料使用量、走行距離、燃費を見える化・周知し、運転者一人ひとりにエコドライブを促す取り組みは引き続き継続しています。また、25年度に営業車のEV化3台を予定しています。
- iv) 環境に配慮した物流
- 輸送時のCO2排出量を削減するため、継続的に物流の委託会社と連携を図り、輸送の効率化や物流拠点の見直しを行っています。
 - 2024年度は、輸送量当たりのCO2排出量が在庫の外部倉庫移動などにより、2017年度比12.4%削減(前年度比0.6%減少)となり、目標を達成できました。
 - 積載効率のアップやモーダルシフト※の拡大、物流拠点の最適化など、今後もより効率的な輸送に努めます。

※ 環境負荷のより小さい輸送を行うため、輸送手段を換えること。

④ 次年度の取組内容

- 2025年度は、次の目標に取り組めます。

取り組み項目	目 標
i) 環境に配慮した製品開発	テーマ創出活動 4件
ii) 環境に配慮した生産	カイゼン提案 3,950件
iii) 環境に配慮した販売	社有車の燃費の把握・周知
iv) 環境に配慮した物流	輸送量当たりのCO2排出量 13.3%削減 (2017年度比)

(6) 化学物質の削減

① 取り組み計画

取り組み計画	象			
	本社 Act Terrace 関東エリア	坂越工場	赤穂工場	その他 支店等
・ 取扱量等の把握・適正管理			☆	
・ 生産ロス の低減		☆	☆	
・ カイゼン提案活動の推進		☆	☆	

② 達成状況

	2024年		
	目 標	実 績	達成状況
工場	・ 生産工程で使用する PRTR対象物質の排出量・廃棄量 75.8%減少（2017年度比）	70.6%減少	△

達成状況 ○:達成 △:未達成(原単位は改善) ×:未達成(原単位も悪化)

③ 評価(結果)

- 化学物質は身の周りで数多く使われているとおり、日常生活に不可欠ですが、適正に管理する必要があります。当社の製品でも化学物質を使用しており、生産工程における排出や廃棄によるロスを減らし、それが製品に有効利用されるよう取り組んでいます。
- 2024年度は、2017年度に比べ取扱量の大幅な減少が見込まれたことから、2017年度比75.8%減少の目標を掲げて取り組みましたが、生産量の増加やテスト生産の廃棄もあったため、70.6%減少に留まり、原単位は改善したものの目標を達成できませんでした。
- 今後も、研究開発部門と生産部門が連携して、製品の開発・改良と生産効率のアップの両面から削減に努めます。

④ 次年度の取組内容

- 2025年度は取扱量が増加することに伴い、PRTR対象物質の排出量・廃棄量を2017年度比74.6%減少(前年度比13.3%減少)することを目標として取り組みます。



(7) その他の活動状況

① CSR、サステナビリティに関わる取り組みへの強化

- CSR、サステナビリティへの取組をさらに加速させるために2022年10月にCSRサステナビリティ推進部を設置し、企業全体として気候変動対応、生物多様性への対応などに戦略的に取り組んでいます。
- 2022年度はTCFD提言へ賛同を表明し、その開示要請に基づき気候変動に関するデータや取り組みの開示を実施しています。
- 2024年度は昨年に続き、GHG排出量（Scope1,2,3）を算定して、第三者保証を受けています。Scope3については昨年に続き、アースグループでの第三者保証を受け、結果をHPに開示しました。



② 社会とのコミュニケーション

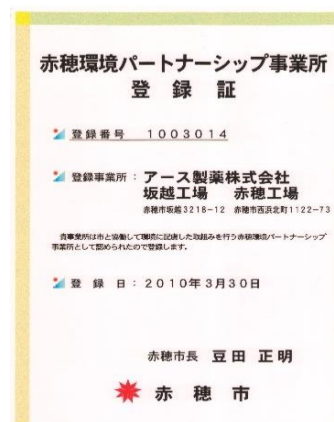
- ・地域社会の一員として地域コミュニティに根ざした活動を行い、ともに発展していきたいと考えてさまざまな取り組みを進めています。たとえば、本社・工場では近隣住民や学校、企業と合同で地域の清掃活動を行っています。
 - ・主力工場である坂越工場、赤穂工場はいずれも兵庫県赤穂市に立地しており、地元活性化の一環として赤穂シティマラソン等に協賛しています。また、兵庫県が中学生を対象に実施している就業体験「トライやる・ウィーク」、地元の学校での「出前教育」や「キャリア教育」にも協力しています。
- そして、工場見学は、当社の活動を社会や地域の方にご理解いただく貴重な機会です。2024年度は、144組1851名と前年度と比べ約550名増え、多くのお客様に見学していただきました。
- ・今後もこのような機会には積極的に参画し、地域の皆様とのコミュニケーションに努めます。

③ 地域社会と連携した取り組み

- ・坂越工場、赤穂工場は赤穂市と「環境保全協定」を締結し、排水などの基準の遵守、履行状況の報告を行なっています。また「赤穂環境パートナーシップ事業所」に登録し、赤穂市と協働で、温室効果ガスなどの環境負荷低減に取り組んでいます。さらに、環境保全の推進を目的として赤穂市内の企業、赤穂商工会議所で構成する「赤穂環境保全協議会」に加盟し、会員企業と連携した活動も実施しています。
- ・また、本社・Act Terrace、坂越工場・赤穂工場が所在する東京都千代田区、兵庫県赤穂市と地域の安全安心で健康な暮らしに関する包括連携協定を締結しています。また、神戸市に外来生物に関する啓発活動支援のための企業版ふるさと納税による寄付なども実施しております。
- ・このように地元の環境保全等にも積極的に係わりながら、地域社会との共生を図っています。



〔外来生物に関する啓発支援を目的とした取り組み〕



〔赤穂環境パートナーシップ登録証〕

③ グローバルにおける社会貢献活動への取り組み

- ・2021年5月には、国際連合が提唱する「国連グローバル・コンパクト」に署名し、参加企業として登録されました。事業を通じた社会貢献活動を国際基準で“見える化”するとともに、グローバルにおいても、アースグループのESG経営をさらに推進していきます。

◆ 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規等は次のとおりです。

適用される法規等 (関連条例を含む)	適用される施設等	本社 坂越 赤穂 その他 Act 工場 工場 支店等				遵守 状況
大気汚染防止法	(ボイラ; 特定施設適用外)					遵守
水質汚濁防止法	洗浄施設, ろ過施設 規制基準・自主基準		○	○		〃
瀬戸内海環境保全特別措置法	排水量 50m ³ /日以上 規制基準・自主基準		○	○		〃
騒音規制法	圧縮機, 送風機, 重油バーナー 規制基準・自主基準		○	○		〃
振動規制法	空気圧縮機 規制基準・自主基準		○	○		〃
悪臭防止法	排気等		○	○		〃
土壌汚染対策法	土壌(形質変更時要届出区域)			○		〃
廃棄物処理法	一般廃棄物, 産業廃棄物	○	○	○	○	〃
省エネ法	エネルギー使用量 1,500kL/年以上 (原油換算)、貨物輸送量3,000万トン キロ以上の事業者	○	○	○	○	〃
地球温暖化対策推進法	〃	○	○	○	○	〃
フロン排出抑制法	空調機, 冷凍機	○	○	○	○	〃 管理等はオーナー
PRTR法	第一種指定化学物質(ホウ素・ペルメ リン・POEアルキルエーテル・DDVP等)		○	○		〃
プラスチック資源循環促進法	プラスチックの3R 製品の環境配慮設計	○	○	○	○	〃
家電リサイクル法	家電	○	○	○	○	〃
小型家電リサイクル法	小型家電	○	○	○	○	〃
自動車リサイクル法	自動車	○	○		○	〃
容器包装リサイクル法	容器包装		○	○		〃
浄化槽法	浄化槽			○		〃
下水道法	下水道	○	○		○ 何れか一方	〃
消防法	危険物(重油・灯油・アルコール等)の取 扱い及び貯蔵		○	○		〃
高圧ガス保安法	高圧ガス(ガスボンベ等)の取扱い		○	○		〃
毒物劇物取締法	毒物・劇物の取扱い		○	○		〃

○: 規制対象

環境関連法規等の遵守状況の定期評価の結果、法規等の違反はありませんでした。

また、関係当局からの違反の指摘や訴訟等も過去3年間以上ありません。

[代表者による全体評価と見直し・指示]

・ 2024年度は廃棄物、コピー用紙が目標達成できたが、エネルギーと水は生産量増加により目標未達成。化学物質も目標にはわずかに届かなかったが、大幅に削減できた。ただし、未達成項目はその事実を真摯に受け止め、今後取り組む。一方、CO2排出量に関しては、2021年度から電力会社から購入する電力を再生可能エネルギー由来の電力に切り替える取り組みを開始し、大幅削減を実現できた。再エネ切替えは引き続き他拠点へも展開していく。

近年、生産品目の追加や増産、事業所の拡大など業務の拡大に伴い、環境負荷は増加傾向にあり、2025年度も増産が予定されるが、運用、設備の両面で改善を図り、全体としては削減できるよう取り組むこと。

・ 2024年度は前年に続きCDPから気候変動・水リスク・森林に関する開示要請があり、アース製菓単体の活動を開示した。今回の評価を受け取り組むべき課題を一つ一つ解決していく、気候変動へのリスクに向け戦略的に取り組むこと。

・ 気候変動対応について会社としてさらに取り組みを進めること。生物多様性への取り組みについても継続していくこと

2025年3月19日

EA21代表者 唐 瀧 久 明

事業所の所在地・規模

2024年12月末日

No.	事業所名	所 在 地	規 模		備 考
			従業員数 (名)	延床面積 (㎡)	
1	本 社	東京都千代田区神田司町2-12-1	302	4,439	
2	坂越工場	兵庫県赤穂市坂越3218-12	484	43,753	
3	赤穂工場	兵庫県赤穂市西浜北町1122-73	175	41,872	
4	掛川工場	静岡県掛川市細谷字山合635-1	-	7,904	2023年11月 休止 2025年 3月 譲渡
5	Act Terrace	東京都千代田区神田司町2-14-3	248	3,669	2019年10月 開設 営業本部・関東エリア支店
6	横浜事務所	神奈川県横浜市港北区新横浜2-6-13 新横浜ステーションビル9F	6	105	常駐者なし、2020年8月 移転
7	山梨事務所	山梨県甲斐市富竹新田1824	3	66	常駐者なし
8	松本駐在所	長野県松本市征矢野1-6-5	5	118	
9	宇都宮事務所	栃木県宇都宮市中今泉1-22-22	7	94	常駐者なし
10	高崎駐在所	群馬県高崎市西横手町351-1	8	101	
11	埼玉事務所	埼玉県さいたま市北区宮原町1-853-8 ウェルネスキューブ大宮6F	12	154	常駐者なし、2019年10月 移転
12	新潟出張所	新潟県新潟市中央区上近江2-19-14	9	135	
13	水戸事務所	茨城県水戸市千波町2402-6	7	113	常駐者なし
14	千葉事務所	千葉県千葉市中央区登戸1丁目23-16 AQUA GARDEN 六羊302	8	72	常駐者なし
15	北日本支店	宮城県仙台市青葉区上杉5-3-36 第三勝山ビル3F	22	274	2020年12月 縮小
16	札幌出張所	北海道札幌市中央区南一条西7-16-2 岩倉ビル3F	15	188	
17	青森事務所	青森県青森市八ツ役字矢作73-4	4	99	常駐者なし
18	盛岡事務所	岩手県盛岡市中央通1-7-25 朝日生命盛岡中央通ビル8F	4	81	常駐者なし
19	秋田事務所	秋田県秋田市中通2-4-19 商工中金第一生命秋田ビル8F	3	59	常駐者なし、2018年10月 移転
20	山形事務所	山形県山形市七日町1-4-18 トラッドセブン2階D	3	47	常駐者なし
21	郡山事務所	福島県郡山市虎丸町5-8 さくらNTビル203号	4	36	常駐者なし、2021年3月 移転
22	中日本支店	愛知県名古屋市中区丸の内3-14-32 丸の内3丁目ビル8F	33	506	
23	金沢出張所	石川県金沢市鞍月5-181 AUBE 6F	8	83	
24	静岡出張所	静岡県静岡市葵区黒金町59-6 大同生命静岡ビル2F	13	174	
25	津事務所	三重県津市大門6-5 三井生命津ビル3F	1	52	常駐者なし
26	関西支店	大阪府大阪市中央区大手通3-1-2 エスリードビル大手通8F	62	570	駐在所閉鎖 2020年12月
27	中四国支店	広島県広島市西区楠木町1-14-31	26	323	
28	山陰事務所	鳥取県米子市西福原2-1-1 YNT第10ビル107号	4	53	常駐者なし
29	岡山出張所	岡山県岡山市北区下中野402-4	7	57	2020年9月 移転
30	小郡事務所	山口県山口市小郡山手上町4-17	3	42	常駐者なし、2020年7月 縮小
31	四国駐在所	徳島県徳島市川内町加賀須野923	9	125	
32	松山事務所	愛媛県松山市天山3-10-28 忽那ビル205号	4	54	常駐者なし
33	高知事務所	高知県高知市高須1-17-31 大塚製薬(株)内3F	2	20	常駐者なし
34	九州支店	福岡県福岡市博多区奈良屋町13-13	35	484	
35	長崎事務所	長崎県長崎市油木町11-5	3	37	常駐者なし
36	熊本事務所	熊本県熊本市辛島町3-20 NBF熊本ビル8F	4	73	常駐者なし
37	大分事務所	大分県大分市碩田町3-1-43	3	68	常駐者なし
38	宮崎駐在所	宮崎県宮崎市高千穂通1-6-38 ニッセイ宮崎ビル12F	4	72	
39	鹿児島出張所	鹿児島県鹿児島市城南町3-7	8	78	
40	沖縄駐在所	沖縄県那覇市久茂地3-15-9 アルテビルディング那覇5F	6	61	
計			1,564	106,308	